

令和3年度
教育に関する事務の管理及び
執行状況の点検評価報告書

令和5年2月
湯沢町教育委員会

教育に関する事務、事業の点検・評価

保小中一貫教育が本格スタートして6年目を迎え、教育委員会、認定こども園、小学校、中学校の連携を深め、家庭、地域と協働して、保小中の連続性のある教育体制の充実を図りましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、認定こども園において2回、延べ6日間の全休園と7回のクラス休園を実施し、小・中学校においても10回の学級閉鎖を実施しました。また、マグナ教育交流が前年同様中止となるなど、各所における行事・イベント等の延期、中止及び開催規模の縮小等の対応が必要となり、3密の回避、施設及び手指の消毒等の感染防止対策の徹底に取り組みました。

令和3年度における決算額は、児童福祉費 539,496 千円、教育費 439,788 千円となり町決算額に占める割合は 11.8%でした。

児童福祉費の内訳としては子育て総合支援費に 14,399 千円、児童クラブ費に 8,435 千円、認定こども園の運営管理費として 278,371 千円などとなっています。

教育費の内訳としては、学校関係では奨学金等就学奨励費 18,796 千円、小学校・中学校にかかる費用として学園管理費 128,015 千円、学園振興費 23,863 千円、学校給食事業費 87,434 千円となっています。社会教育関係は、公民館費 49,846 千円、うち全国童画展事業費 2,961 千円で、文化財保護費 12,434 千円のうち雪国館の指定管理料として湯沢町観光まちづくり機構へ 9,676 千円、生涯スポーツ推進費 20,966 千円のうち湯沢町総合型地域スポーツクラブ「ユースポ！」へ町の体育事業のため 15,806 千円を支出しました。

1 教育委員会

(1) 教育委員

教育委員会の構成は、教育長、教育長職務代理者、委員 3 名で構成されています。教育長が第一義的な責任者であることと、町長が直接教育長を任命することで任命責任が明確化されています。

教育委員会は定例会議を毎月 1 回開催して教育委員会の各案件の審議をしました。

例年、入学式、文化・スポーツ等の各種行事にも積極的に参加していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による中止や開催規模の縮小等があり、子どもたちとの接触を避けました。

(2) 教育委員会事務局

教育委員会事務局では、教育課、子育て支援課、認定こども園で独自施策・課題

の対応を進めました。教育課付けで会計年度任用管理指導主事1名を配置しました。

ア 教育課

教育課は、小・中学校に関する運営及び施設の維持管理及び奨学金や就学援助等に関する事務や、公民館活動、生涯学習の推進、スポーツ振興、文化財保護等の事務を行いました。

課の構成は、部長が学校給食センター長を兼務し、課長が公民館長を兼務して、教育係長1名、係員1名、会計年度任用事務員1名と学園内に会計年度任用校務員が3名の配置でした。また、地域交流センターの所管が子育て支援課から教育課に移り、会計年度任用社会教育指導員1名が異動配置されました。

イ 子育て支援課

子育て支援課は、子育て支援関連業務について総合的に対応しており、また認定こども園、児童クラブ等の事務を行いました。

課の構成は、課長1名、係長1名、主任保健師1名、主任保育士1名、会計年度任用保育士2名で業務を行いました。

ウ 認定こども園

認定こども園は、園長1名、副園長1名、指導保育士1名、主任保育士6名、保育士9名、用務員1名、会計年度任用管理栄養士1名、会計年度任用事務員1名、会計年度任用保育士17名で、こども園の運営に関する業務を行いました。調理業務は、委託となっています。

2 各課・係の点検

(1) 教育課 学校教育関連

ア 湯沢学園（小・中学校）

保小中一貫教育が本格スタートして6年目となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、小学校で6回、延べ30日間、中学校で4回、延べ19日間の学級閉鎖を実施しました。小・中学校入学式は、4月9日に午前・午後に分け来賓数名で実施しました。5月に予定していた9年生の修学旅行は、石川県における新型コロナウイルス感染症の新規感染者数増加のため、行き先を県内に変更し9月に実施されました。6年生の修学旅行は予定通り6月に実施しました。10月9日に体育祭を午前中に時間を短縮し開催しました。11月6日に教育フェスティバルが開催され、第1部は小学生による学習発表会、第2部は中学生による合唱コンクールが行われました。1月18日には全校で不審者対応避難訓練が行われました。2月3日には新7年生入学説明会、2月8日には新1年生体験入学が行われ、3月2日は中学校の卒業式が行われ、3月24日には小学校の卒業式が行われました。

イ コミュニティ・スクール

学校運営協議会では、「あいさつ運動」で「あいさつ標語」を活用し前年に作成したポスターとチラシを使って、啓発活動に取り組みました。また、「今求められているコミュニティ・スクールの在り方」を学ぶ機会を持ちました。

ウ 学力・学習状況

全国学力・学習状況調査等の結果では、学年や領域によって全国平均を超えるものと達しないものがあります。全体の児童生徒数が少ないため、年度によるばらつきもあって、学力向上は引き続いての課題です。

学校生活において「自己肯定感」が低いことも統合前からの課題となっていました。改善しつつある状況も見られます。メディアと接する時間を減らして家庭学習の時間を確保し学力の向上につなげていくことと併せて、さらなる改善を図っていきたいと考えています。

エ 体力の状況

体力的には、全国平均を上回るなど概ね良好な結果が得られていますが、学力と同様の年度による変動や種目によるばらつきがみられるため、スクールバス登校の影響も注視しながら学園生活を通し改善を図っていきます。

オ 特別支援教育

小中学校における特別支援が必要な児童生徒の割合が増加傾向にあります。そのため、引き続き小学校に知的障がい3学級、自閉症・情緒障がい1学級、中学校にもそれぞれ1学級の特別支援学級を設置するほか、通級指導教室（言語通級、発達通級）も設置するとともに、介助員・相談員の確保に努めています。また、総合子育て支援センターにおいて、保小中一貫して支援する体制を継続しました。

カ いじめ・不登校状況

いじめは、小学校で1件、中学校で1件が報告され、個別指導や学年集会などで指導し、収束に向かいました。

不登校（病気を除く30日以上欠席）については、小学校で4名、中学校で8名発生し、登校への働きかけを継続しました。

キ マグナ国際交流事業

新型コロナウイルス感染症の影響をマグナ側と協議した結果、交流事業は受入・派遣とも中止することを決定しました。

(2) 教育課 生涯学習関連

ア 公民館事業

社会教育関係行事も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止や延期が相次ぎました。

10月16日、湯沢町公民館で、石川雲蝶の世界について南魚沼雲蝶会々長の公演を開催し、90名の方が参加しました。11月3～5日まで湯沢町総合文化祭を開催

し、多くの作品が展示され、生け花体験や工作教室などに多くの方が参加しました。11月20日に令和2年度成人式を1年3ヶ月延期して開催し、27名(対象者88名)の新成人が参加されました。令和3年度の成人式は翌年度に延期しました。

イ 公民館講座

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、開催が不安定となりましたが、長期講座では学習の講座が6講座、趣味の講座が4講座開催されました。

ウ 図書室の運営

公民館図書室の利用は、年度末で登録者数は1,941名で、貸出は8,680冊でした。学園図書室の一般開放は、利用者が少ないため令和2年4月より見合わせています。

魚沼定住自立圏構想による魚沼市との「図書館等の相互利用に関する協定書」を平成31年4月に取り交わし、すでに協定を締結している南魚沼市に加え、2市1町で相互利用が可能となっております。南魚沼市図書館との相互利用では、湯沢町民の南魚沼市図書館利用は、登録者866名、貸出10,996冊、南魚沼市民の湯沢町公民館図書室利用は、登録者46名、貸出171冊でした。魚沼市との相互利用は、登録者、貸出とも実績なしでした。

エ 地区館事業

三国、三俣地区のスポーツ大会、土樽・神立・湯沢地区の運動会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。各地区館活動を推進し、地域のコミュニティ活動の活性化を図っており、難しい状況が続きますが、継続して推進します。

オ 全国童画展

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による東京の緊急事態宣言により令和2年度の2月審査会が延期となり、3月に開催できなかった第25回越後湯沢全国童画展を、4月24日から5月3日まで湯沢町公民館において開催し、497名の方に来館をいただきました。作品展は、湯沢カルチャーセンター、新潟ふるさと村でも開催しました。第26回越後湯沢全国童画展は、全国から232点の作品をお寄せいただきましたが、令和3年度も2月審査会が延期となり作品展は令和4年度に実施することとなりました。

カ 文化財保護

新潟県指定文化財「三国街道脇本陣跡池田家」が町へ寄贈され4年目を迎えました。令和3年度は、個人委託でお願いしていた管理人の体調不良により、十分な来客対応ができず開館期間も短くなり、68名の入館となりました。

雪国館は、指定管理者の湯沢町観光まちづくり機構が運営しており、様々な企画展、体験事業等を実施して利用者の増加に努めました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で入館者は令和元年度の半分程度でした。

キ スポーツ振興

スポーツ振興では、総合型地域スポーツクラブ「ユースポ！」に町のスポーツ関係を委託し実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により町民スポーツ大会はすべて中止となりました。他にも各種スポーツ教室等が中止や延期、規模縮小などせざるを得ない状況でした。

(3) 子育て支援課関連

ア 放課後児童クラブ

放課後児童クラブは、指定管理者である社会福祉法人湯沢町社会福祉協議会による運営で、預かり時間の拡充や長期休業のみの利用対応などのほか、サービスの充実を図っています。

今年度当初の利用者は、通年利用者が前年度から4名減の37人、長期休業のみの利用が6名減の15名となり、合計52名となりました。昨年度に引き続き利用者が定員数（40名）を超過しており、次年度以降も利用者が定員数を超過することが見込まれることから、引き続き放課後児童支援員等の人員の確保を行うとともに、施設面積の確保のため新規施設を建築し対応することとしました。

令和3年度は新施設の詳細設計を業務委託し、建物の規模や予算、工程、補助金等を確定させました。

また、新型コロナウイルス感染症のまん延により、町からの利用自粛要請を受けたことで休所する児童が増え、利用料が当初見込んでいた金額より減少したため、湯沢児童クラブ指定管理料を変更し対応しました。

イ 総合子育て支援センター

総合子育て支援センター（愛称：JumPla.net（ジャンプラネット））は、専任の保健師と保育士が常駐していることで、相談業務等に迅速に対応できるほか、湯沢学園内にあることで、保健師や保育士、教職員との情報共有を図ることができ、支援が必要な園児・児童・生徒とその家庭に的確な支援を行いました。

ひろば事業としては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を取りながら、育児講座、親カフェ、親子教室などの事業を実施し、広場の開放も前年のような予約制をとらず通常開放で実施しました。一時預かり事業では、湯沢認定こども園の待機児童2名を受け入れたり、年間を通じて利用者が多く、会計年度任用職員を配置し利用ニーズに対応しました。

また、平成29年度から療育発達支援事業として、年長児対象の小学校生活を想定した体験教室の「のびのび教室」を実施し、学校生活に求められる適切な態度を身に付け、緩やかに順応できるよう行いました。

ウ 青少年健全育成、学園支援

青少年健全育成事業は、事務局を学園内の地域交流センターに置き、社会教育指導員を配置しています。青少年育成指導員を中心に「あいさつ運動」や各種行事での巡回や啓発活動、社会環境浄化活動などを行いました。

学園支援では、平成30年度に立ち上げた湯沢学園支援コーディネーター連絡会を基として、学園支援コーディネーターが主体となり、通学路の見守りや花壇の整備、図書室の整理や環境整備、校舎清掃等の環境美化などの年間活動計画を作成し、支援活動を実施しました。

(4) 認定こども園関連

ア 湯沢認定こども園

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、年少児親子遠足、年中児親子遠足、年長児親子遠足を行いました。2歳児は、親子ふれあい遊び、1歳児は親子遠足を楽しみました。3歳以上児クラスの運動会を第2グラウンドで行いました。年少児と年中児は、秋のお楽しみ遠足に行きました。3歳以上児クラスの発表会では、観客の人数制限を行いながら学年ごとの発表にし、検温、マスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスを徹底し、短い時間ではありましたが保護者等が来場され、園児の表現活動（踊り、劇あそび、歌）をご覧いただきました。夏は川遊びやプール遊びを行いました。冬は雪遊びを十分楽しみました。開園時から始めた、預かり時間の拡充（7時30分から19時まで）、休日保育（年末年始を除く全ての休日）などのサービスも保育士のシフト対応等の協力で実施できており、引き続きサービスの充実に努めます。

3月は、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、卒園式は卒園児とその保護者のみとし、年中児と来賓は参加なしで実施しました。

入園児数は未満児の入園率が増加しており、今後もこの傾向は続く見込みです。子育て支援センター・児童クラブ新施設建設により、こども園の保育面積を増やし、定員の増を図ることとしております。

令和3年度入園児数（令和4年1月1日現在）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
人数	14	21	36	43	43	49	206